

アジアへ飛躍する国際産業都市・浜松

政令指定都市移行から半年

課題克服で二層の飛躍を

今年4月に政令指定都市に制定された浜松市。「共生、共助でつくる豊かな地域社会」「ひとの浜松」をスローガンに掲げ、進んでいる。これまで「ひとの集積地」として発展してきた同市が、今後どう発展していくかが注目されている。鈴木康友市長が掲げるマニフェストをもとに政策を進め、半年が経過した同市の「今」をレポートする。

浜松市はスズキやヤマハなどのグローバル企業が本社を置く全国屈指の工業都市。全国で16番目の政令指定都市となり、製造業だけでなく、農業や観光なども充実している。同市は起業家を育む「やらまいか」や「やってみようの方言」精神が根付き、早くから産業が発達してきた。人口は81万人を超え、面積は全国市町村で2位。今後さらに発展が期待される。

同市の主力産業は輸送用機器や楽器、光技術など。政令指定後も主軸となるこれらの産業を先導に、企業誘致や新産業の育成を進め、アジアでのさらなる飛躍を目指す考え。しかし一方で課題も抱えている。「モノづくりの空洞化」もその一つ。近年、大手企業の工場などが、周辺都市や海外への進出を進め、製造業の流出が相次ぐ。工業用地の確保や人件費問題などもあり、企業はトータルコストの高い周辺都市へ工場を移している。空洞化を防ぐためには、行政が主導となり、製造業を支援することが必要。



「はままつ産業創造センター」の開設記念式典

子ども第二主義がマニフェスト

市民に身近な政策を推進するのと同市の特徴。鈴木市長は、まちづくりの指針を示す「マニフェスト」工程表を公表している。その骨子は「子ども第一主義」「くらし満足度向上計画」「07浜松改革元年」の3項目。任期末の2011年4月までの計画が盛り込まれている。とくに子どもたちにかかわる政策を重要分野にあげる。「浜松の目指すべき将来像を実現するには、子どもたちの健全な成長が必要」という同市の考え方が顕著に示されている。

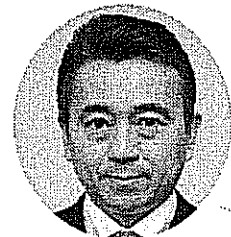
市のPRも積極的に推進している。政令指定都市移行に合わせ、赤塚不二夫氏原作の人気漫画「天才バカボン」のウナギヌを浜松市のマスコットキャラクターに選定。同キャラクターを「はままつ福市長」に任命し、政令指定都市・浜松を盛り上げたい考え。また、商工会議所は浜松産業のブランド力の向上と普及を目指し、地域ブランド「やらまいか浜松」の認定事業を行っている。第二回の認定では、市内の特産品や工業製品などから35品目が認定されている。



中小企業の設備投資も活発(写真:エコム新工場)

ごあいさつ

浜松市長
鈴木 康友



浜松市は、オートバイや楽器、光技術など様々な分野に多くの起業家を輩出し、我が国有数の産業の集積都市として発展してまいりました。

また、本年4月には政令指定都市に移行し、豊かな自然環境と都市的な機能をバランスよく持ち合わせた広大な市域を有する都市となりました。

しかし、工場移転による産業の空洞化など懸念すべき課題も多く、引き続き本市が都市間競争を勝ち抜いていくためには、既存産業の基盤を充実・強化するとともに、次世代のリーディング産業の創出が必要であると考えています。

このため、「アジアへ飛躍する国際産業都市」をテーマとして、既存企業の成長・発展への支援を強化するとともに、私自らが先頭に立って外部からの企業誘致等を積極的かつスピード感をもって取り組んでいるところです。

今後は、知的クラスター創生事業(第Ⅱ期)や産業クラスター計画(第Ⅱ期)などのプロジェクトを積極的に推進するとともに、本年7月に設立したはままつ産業創造センターを拠点として、産学官の強固な連携体制のもと、さらなる産業集積促進と、イノベーションの創出に努めてまいりますので、ご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。